



生駒市立鹿ノ台小学校

鹿小だより



鹿ノ台ホームページ

令和 8年 9月7日

第 10 号

令和8年度全国学力調査(国語・算数)結果の概要

今年4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果が7月末に発表されました。学力調査は、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し教育施策の成果と課題を検証、改善を図ることを目的としています。本校児童の学力の傾向や指導改善の方向性を把握するための資料として活用していきたいと考えます。



❖日々の授業改善の成果

本年度の全国学力・学習状況調査では、国語・算数ともに全国及び県平均を上回る結果となりました。国語では、「情報を読み取って自分の考えをまとめる力」や、算数では「説明を伴う問題への対応力」においても全国平均を上回っており、「考えを伝え表現する学習活動」を重点的に取り組んできた成果のひとつと考えられます。

先生に続いて音読 1年



❖根拠を示して記述することに課題

*文中下線部リンクあり

一方で、教科を横断して見ると共通した課題も明らかになりました。

国語では、資料や文章から必要な情報を適切に引用し、条件に沿って記述することに課題が見られました。また算数でも、答えをもとめることはできていても、その根拠や考え方を条件に応じて説明することが十分とは言えませんでした。さらに、表やグラフ、資料などから必要な情報を取り出し、それを根拠として活用する力についても継続した指導が必要であると考えられます。

これらの結果から、本校の課題は単に「書く力」や「説明する力」というよりも、「根拠となる情報を適切に取り出し、自分の考えと結び付けながら表現する力」に集約できると考えます。

❖今後、意識したいこと

今後の授業においては、「なぜなら」「例えば」などの言葉を用いて理由や事例を明確にする活動を意図的に取り入れるとともに、文章・図・表・式など複数の表現を関連付けて考える学習を充実



させていくことが求められます。また、児童同士が互いの考えを交流し、根拠を問い合ったり比較したりする活動を通して、自分の考えを見直し深める機会を積極的に設定していくことを重視していきます。

本校が重点として取り組んでいる自己調整力を育む取組や協働的な学び、心理的安全性の高い学級づくりは、こうした力の育成とも深く関わっています。児童が安心して考えを表現し、互いの考えを認め合いながら学ぶ中で、「なぜそう考えたのか」「どの情報を根拠にしたのか」を説明できる力を育成していきたいと考えています。



シーシーシー 小気味よいリコーダーの音色 3年



国語【詳細】

教科ごとの詳細の分析は
こちらをご覧ください。

[国語](#)

[算数](#)



算数【詳細】

気付いて 寄り添い
受け止めて 繋げよう

SOSの出し方教室

毎年、6年生を対象に、スクールカウンセラーによる「SOSの出し方教室」を実施しています。心に不安や悩みを抱えたとき、相談できる誰かがいることは、大きな心の支えになります。しかし、「迷惑をかけたくない」「こんなことを相談してもいいのかな」と思い、うまくSOSを出せなかったり、自分でも気付かないうちに悩みを抱え込んでしまったりすることがあります。困難に直面したときに、子どもたちが身近な大人や仲間に「助けて」のサインが出せるようになるためには、周囲の受け止め方がとても大切です。

授業では、まず「心の傷は体の傷と同じように手当てが必要であり、誰かに話を聞いてもらうことが心の手当てにつながる」とサインを出すことの大切さを学びました。

続いて、ワークシート「心のもやもや度チェック」を使って自分の心の状態を見つめ、「もやもや」を減らす方法について考えました。家族や友達、先生だけでなく、複数の相談先を思い浮かべること、困ったときに頼れる人の存在を確認しました。さらに、相談するときどのような言葉で切り出せばよいかについても考えました。

特に印象的だったのは、相談する人と話を聞く人に分かれて行ったロールプレイです。聞き手は、「アドバイスする聞き方」と「気持ちを受けとめる聞き方」の2つの方法を体験しました。相談する側は、それぞれの聞き方にどんな印象を持ったのか、自分ならどちらの聞き方をしてもらいたいのかについて考えました。



ペアでロールプレイを体験中 6年

心が苦しそうな友達を支える場合の合言葉

①きづいて ②よりそい ③うけとめて ④しんらいできる大人に ⑤つなげよう